GIGA POWER

取扱い説明書

snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

屋外専用

ギガパワーツーバーナー液出し
（GS-230）

ギガパワーツーバーナースタンダード
（GS-220）

ギガパワーツーバーナー
液出し（GS-230）
この器具専用の取扱い説明及び注意事項等は、この**「太い罫線内」**に表示されています。

ギガパワーツーバーナー
スタンダード（GS-220）
この器具専用の取扱い説明及び注意事項等は、この**「太い破線内」**に表示されています。

この度はスノーピーク製品をお買い上げ頂き、誠に有難うございます。永く安全にご使用いただくためにも本取扱い説明書を必ずお読みください。また、読み終わったあとも大切に保管してください。説明書内に疑問や理解出来ない内容があった場合は、使用前に必ず弊社までお問い合わせください。

この製品はアウトドア用に開発された屋外専用の二口こんろです。屋内、車内、テント等では使用しないでください。一酸化炭素中毒死や酸欠により窒息死の恐れがあります。屋外であっても狭い空間では換気にご注意ください。使用中または使用直後は器具が熱くなっていますので火傷には十分注意してください。また、お子様が手を触れないようにご注意ください。

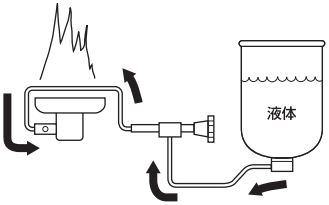
スノーピークの燃焼器具は全数燃焼テストを実施して出荷しております。燃焼テストによりゴトクやバーナーヘッドが若干変色していますがご了承ください。

■機種の特長

ギガパワーツーバーナー液出し（GS-230）

容器を上下逆にすることで、容器内の液化石油ガスを液体のまま取り出し、燃焼させる仕組みとなっています。

容器から気体で取り出し燃焼させる仕組みとは異なり、気化熱が奪われることによる圧力低下がなく、**安定した火力を持続する**ことができます。



snowpeak指定専用容器

「ギガパワーガス500 イソ（GP-500S）白地/銀帯」又は「ギガパワーガス500 液出し（GP-500BL）白地/青帯」を必ず使用してください。

＜注意＞指定専用容器以外は「危険」ですので使用しないでください。また指定専用容器であっても高温の環境で保管された容器は、内圧が高くなり大きな炎が出ますので、バーナーに手や顔を近づけないでください。容器の保管には十分にご注意頂き、高温の環境に保管された容器は一旦冷ましてからご使用ください。

安全のため、「点火は必ず弱火から」行い、火力を確認しながら徐々に強火にしてください。

本取扱説明書における警告と注意について

⚠警告：取扱いを誤った場合、使用者が死亡または重症を負う可能性があることを示します。

⚠注意：取扱いを誤った場合、使用者が傷害を負う危険、及び物的損害の発生が想定されることを示します。

注意：オートイグナイター（着火装置）は高所や低温時に着火しにくいときがあります。山行やキャンプの際は念のためマッチやライター（電子式でないもの）を携行してください。

■目次

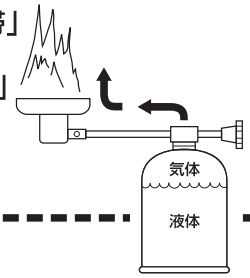
機種の特長 …… 1
安全上の注意事項 …… 3
セット内容（各部の名称） …… 6
組み立てと使用方法 …… 7

使用上の注意 …… 13
点検・手入れのしかた …… 13
アフターサービス …… 13
故障・異常の見分け方と処置の仕方 …… 14
仕様 …… 15

ギガパワーツーバーナースタンダード（GS-220）

容器内の液化石油ガスを、気体の状態で取り出し、燃焼させる仕組みです。

ハイパワーのsnowpeak指定専用容器
「ギガパワーガス500 イソ（GP-500）白地／銀帯」
「ギガパワーガス500 プロイソ（GP-500G）白地／金帯」
をご使用ください。



snowpeak指定専用容器
「ギガパワーガス500 プロイソ（GP-500G）白地に金帯」
「ギガパワーガス500 イソ（GP-500S）白地に銀帯」
を使用してください。

＜注意＞指定専用容器以外は「危険」ですので使用しないでください。また指定専用容器であっても高温の環境で保管された容器は、内圧が高くなり大きな炎が出ますので、バーナーに手や顔を近づけないでください。容器の保管には十分にご注意頂き、高温の環境に保管された容器は一旦冷ましてからご使用ください。

白地／金帯
白地／銀帯

安全のため、「点火は必ず弱火から」行い、火力を確認しながら徐々に強火にしてください。

安全上の注意事項

ご使用前の注意

⚠ 警告

この器具にはsnowpeak指定専用容器をご使用ください。それ以外の容器は使用しないでください。また、snowpeakであっても使用できる容器が定められていますので、下記の⚠警告をご覧ください。

■理由…指定以外のガスカートリッジはバルブ形状、ノズルの太さなど規格が異なります。この基本設計の違いでガス漏れが発生し、引火や火災あるいは異常燃焼を起こすことがあります。

⚠ 警告

GS-230の場合

指定専用容器は
GP-500S　（白地/銀帯）
GP-500BL（白地/青帯）
です。

GS-220の場合

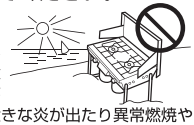
指定専用容器は
GP-500G　（白地/金帯）
GP-500S　（白地/銀帯）
です。

■理由…器具の性能が最大限に発揮できるように配合されています。また他のメーカーの容器は使用しないでください。

⚠ 警告

器具本体や容器を、夏場などの焼けて熱い砂浜や川原の石の上、あるいは舗装路面上では、使用および放置をしないでください。

■理由…直射日光を受けた砂浜や川原の石、舗装路面上は高温になっています。その上に容器を放置したり、器具を使用すると容器が加熱され内圧が急激に上昇し、大きな炎が出たり異常燃焼や爆発の危険性があります。



⚠ 警告

この器具は屋外専用です。テントの中や車中、屋内では絶対に使用しないでください。

■理由…使用中は酸素を大量に消費します。限られた空間での使用は酸欠、一酸化炭素中毒になることがあり、また火災の危険もあります。

⚠ 警告

GS-230の場合

容器の取り付け取り外しは、使用時と反対に正立（接続部が上）垂直の状態で行い、けっして締めすぎないでください。取り外しの際、器具栓内に残った液体が出、ガスが発生します。周りに火気がない事、換気が良い事を確認して、取り外して下さい。

■理由…上下逆の状態で取り付けると液化石油ガスが液体のまま勢いよく噴出し、大変危険です。周囲に火気がないことを確認し、正立（接続部が上）の状態で取り付け取りはずしを行って下さい。容器と器具を接続するネジは大変重要な部分です。過大な力で締めこんだり、斜めにねじ込んだりすると接続部を破損し、ガス漏れの原因となります。

正立（接続部が上）

⚠ 警告

GS-220の場合

容器の取り付けは接続部を上に向け垂直の状態で行ってください。締め付けは片手で行い両手では絶対に締め付けないでください。

■理由…新しい状態の容器は液状のガスが上部まで入っています。斜めに傾いた状態で取り付けると液状のガスが勢いよく噴出し、大変危険です。周囲に火気がないことを確認し、垂直の状態で取り付けてください。容器と器具を接続するネジは大変重要な部分です。両手で締め付けると過大な力がかかり、接続部や容器を破損します。

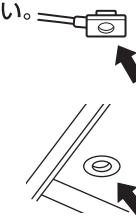
垂直にして、片手で締付け

⚠ 警告

容器接続部分のゴム製のOリングはご使用の都度点検し、摩耗や損傷があるときは弊社若しくは販売店にご相談ください。

■理由…容器の締め付け取り外しでOリングは磨耗します。
またゴム製のOリングは使用しなくても劣化します。
劣化または損傷したOリングを使用するとガス漏れの原因となります。

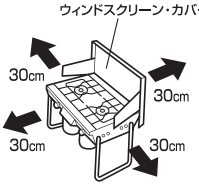
専用Oリング　GPP-007



⚠ 警告

燃えやすい物の下では絶対に使用しないでください。周囲は30cm以上離して使用してください。また「ウインドスクリーン・カバー」は周囲への熱害を防ぐ為にも、必ず指定の方法で装着し使用してください。

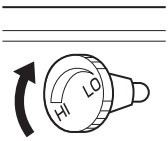
■理由…風向きにより炎の熱は横方向や下方に流れます。また上方には強く伝わりますので火災にならないように燃えやすいものの下では使用しないでください。点火の際はバーナー上部に顔や手などを絶対に出さないください。



燃えやすい物の下では使用しないこと。

⚠ 警告

容器を取り付ける前には、必ず本体前面の火力調節ツマミを時計回転方向に回し、ガス栓が閉じていることを確認してから行ってください。



■理由…火力調節ツマミが開いている状態で容器を取り付けると、燃焼部から液化石油ガスが勢いよく噴出します。

⚠ 警告

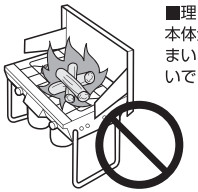
GS-230の場合

オートイグナイター（着火装置）で点火する際はガスを出す前に、オートイグナイターが確実に放電している事を2～3回確認してから点火して下さい。

■理由…点火不良が起きた場合液化石油ガスが液体のままノズルから噴出し、バーナーヘッド内に液体ガスが残ります。この状態で点火しますと、炎上し、大変危険です。

⚠ 警告

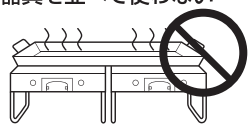
炭の火越こしは絶対にしないでください。



■理由…炭の火越しに使用しますと本体全体や容器を異常に加熱してしまい、大変危険です。絶対に行わないでください。

⚠ 警告

一つの調理器具に複数の器具を並べて使わないでください。

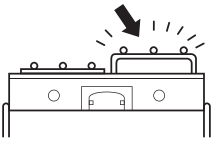


■理由…大きな鍋や鉄板などを複数の器具で加熱すると、お互いの輻射熱で全体が高温となり、本体や容器を異常に加熱してしまい、容器の内圧が急激に上昇し、爆発の危険があり大変危険です。絶対に行わないでください。指定の鉄板以外は使用しないでください。

⚠ 警告

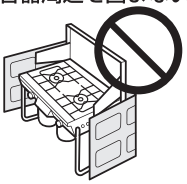
鉄板や大きな鍋（直径28ｃｍ以上）・燻製機・オーブン等を使用するときは、五徳の位置を指定の高い位置に設定し使用してください。五徳を低い位置のまま使用するなど、指定以外の方法で使用しないでください。

■理由…五徳の低い位置で鉄板などを使用しますと、本体内をふさぐ事となり本体や容器を異常に加熱してしまい、容器の内圧が急激に上昇し、爆発の危険があり大変危険です。絶対に行わないでください。



⚠ 警告

風防や天ぷらガード、石などで本体全体または容器周辺を囲まないでください。



■理由…風防や天ぷらガード、石などで囲み、鍋などを乗せ使用すると、本体や容器を異常に加熱してしまい容器の内圧が急激に上昇し、爆発の危険があり大変危険です。絶対に行わないでください。

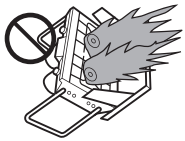
⚠ 警告

ヒーターや焚火など他の熱源があるところでは使用しないでください。

■理由…他の熱源により容器が異常加熱し、容器の内圧が急激に上昇し爆発の危険があります。

⚠ 警告

火がついたまま傾けたり振ったり、持ち上げたりしないでください。また移動の際は、必ず本体前面の火力調節ツマミを時計回転方向に回して消火し、ガス栓が閉じていることを確認し、全体が冷えてから行ってください。

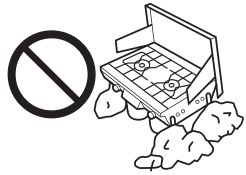


■理由…傾けたり振ったりすると、液状のガスが勢いよく噴出するなど、燃焼が不安定になり、炎が急に大きくなります。

⚠ 警告

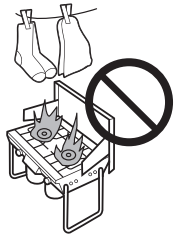
附属のスタンドを指定の位置に装着し、水平で安定した場所でお使いください。

■理由…スタンドを装着しない状態での使用。スタンドの代用の物を使用した状態での使用。傾斜した不安定な場所での使用は、転倒や火傷・火災の危険があります。



⚠ 警告

調理以外の目的に使用しないでください。



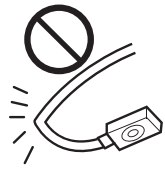
■理由…暖房や衣類の乾燥など、調理以外の使用は火災、火傷、酸欠など思わぬ事故につながる場合があります。また衣類の乾燥などに使用しますと、衣類が落ち火災の原因になり危険です。

⚠ 警告

GS-230の場合

容器の接続チューブを強く折り曲げないでください。

■理由…容器の接続チューブを強く折り曲げると、チューブや接続部分が破損する事があります。燃焼中はガスが遮断され炎が消えます。

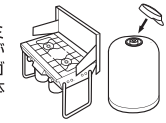


保管と破棄の注意

⚠ 警告

長時間器具を使わない時、または移動する場合は、容器を取り外し、容器にはキャップを取り付けてください。

■理由…本体前面の火力調節ツマミが不用意に開き、ガスが漏れる事があります。また容器の接続部分にゴミやホコリが付着すると、器具本体や容器の故障の原因となります。



⚠ 警告

容器は40度以下の場所で保管してください。

■理由…直射日光の当たるところや40度以上の環境になるところでは絶対に保管・放置しないでください。車内などは特に危険です。

⚠ 警告

空の容器でも火の中に投じたり、他の熱源のそばに置かないでください。

■理由…空になった容器でも、微量のガスが残っています。火の中に投じたり他の熱源のそばに置くと、内圧が上昇し爆発する事があります。

⚠ 警告

容器は、お子様の手の届かないところに保管してください。

■理由…容器をおもちゃにしてしまわないように、またお子様に危険が及ばないように、手の届かないところに保管してください。

⚠ 注意

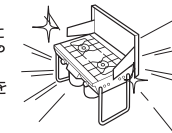
容器を時々点検してください。

■理由…時々容器を点検して、もしサビが発見できた時は、早めに使い切ってください。

⚠ 注意

使用後は点検・清掃をして、器具をケースに入れ保管しましょう。

■理由…ツーバーナーに付着した水分 ・ ホコリやゴミが目づまりやサビを起し故障の原因となります。次回問題が出ない様に点検・清掃をしましょう。



その他の注意

⚠ 警告

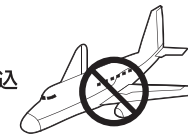
器具や容器の修理や改造は絶対にしないでください。

■理由…器具や容器は精密に作られています。改造は性能低下になるばかりか不完全燃焼やガス漏れの原因になることがあります。修理に関しては、販売店または弊社へお問い合わせください。

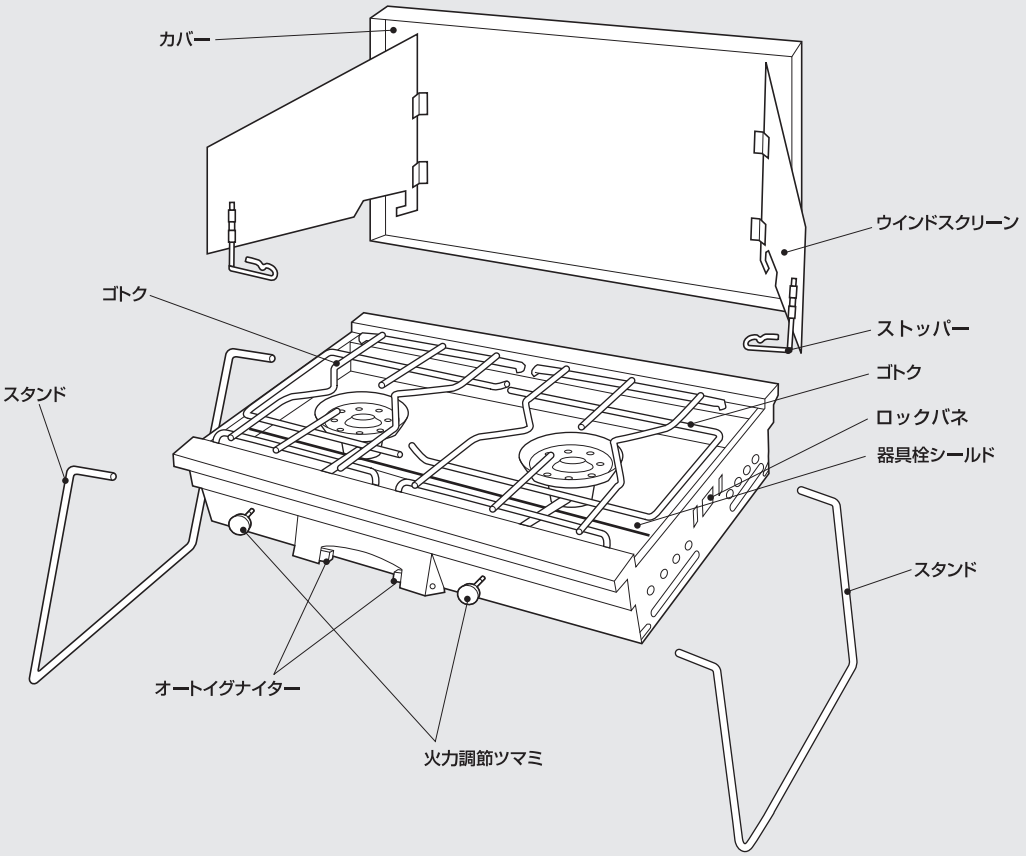
⚠ 警告

容器は航空機には持ち込めません。

■理由…省令により、容器を航空機に持ち込むことはできません。



■セット内容
ツーバーナー本体
ゴトク（×2）
スタンド（×2）
ウインドスクリーン付きカバー
器具栓シールド

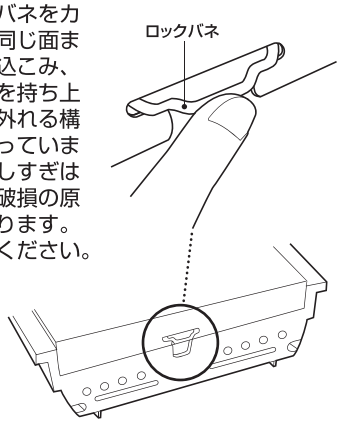


組み立てと使用方法

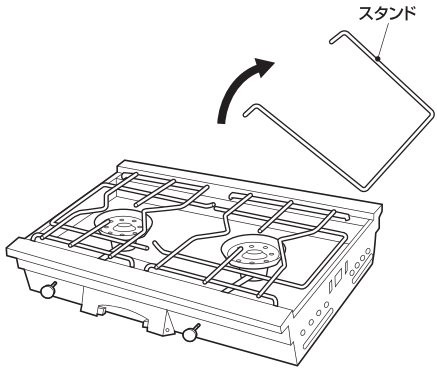
組み立ては平らな場所を選び、また底面の容器接続部にゴミが付着しないようなきれいな場所で行ってください。

1 カバーを取り外し、スタンドを取り出します。

❶ カバー側面のロックバネを図の様に指で押しながら、ゆっくりとウインドスクリーン・カバーを持ち上げます。ロックバネをカバーと同じ面まで押し込みみ、カバーを持ち上げると外れる構造になっています。押しすぎはバネの破損の原因となります。ご注意ください。

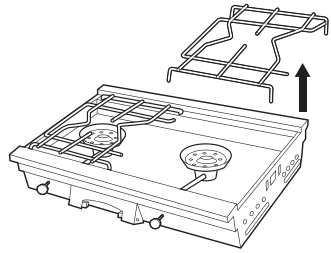


❷ ゴトク上面に収納されている 2 本のスタンドを取り出します。スタンドは内側にテンションが掛かった状態で収納されています。外側に軽く開くようにしながら外すと簡単に取り出すことができます。

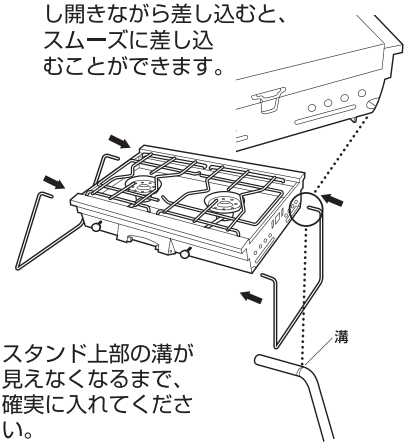


2 スタンドを組み付けます。

❶ 本体内部に収納されたゴトクを取り出す。ゴトクは本体と分離されています。スタンド取り付けの際に落下する恐れがありますので、必ずゴトクを取り出してからスタンド組みつけの作業をしてください。



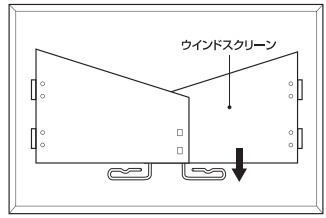
❷ 本体左右の穴に、スタンドの端部を差し込みます。この時、スタンドの端部を少し開きながら差し込むと、スムーズに差し込むことができます。



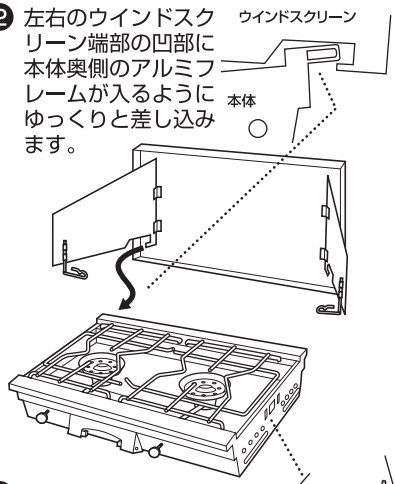
スタンド上部の溝が見えなくなるまで、確実に入れてください。

3 ウインドスクリーン・カバーを取り付けます。

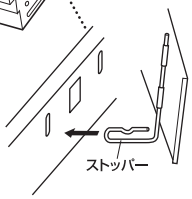
❶ カバー内側に収納されたウインドスクリーン下のストッパーを引き下げると、スクリーンを開くことができます。閉じる時は、向かって左のスクリーンを上になるように折りたたみ、ストッパーを押し上げると固定できます。



❷ 左右のウインドスクリーン端部の凹部に本体奥側のアルミフレームが入るようにゆっくりと差し込みます。



❸ ウインドスクリーン下部のストッパーを本体側面のスリットに差し込みます。

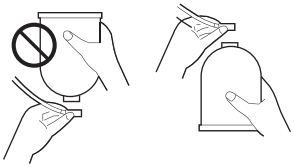


4 容器の器具への取り付け取り外し。

GS-230の場合

snowpeak指定専用容器を使用してください。
指定専用容器以外は使用しないでください。

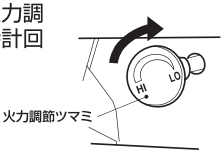
容器は正立（接続部が上）の状態で取り付けてください。容器を倒立（接続部が下）の状態で、器具へ取り付けますと液状のガスが勢よく噴出し、引火・火災・火傷の原因となり大変危険です。



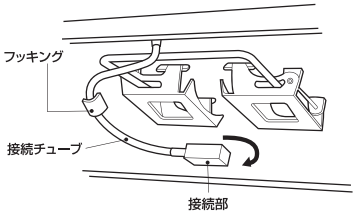
周囲に火気がないことを確かめてから接続してください。容器と器具を接続するネジは大変重要な部分です。

過大な力で締めこんだり、斜めにねじ込んだりするとガス漏れの原因、破損の原因となります。

❶ 本体前面の火力調節ツマミを時計回転方向に回し、ガス栓を閉じてください。



❷ 裏面に収納されている、接続チューブを取り外します。取り外しはチューブのフッキングを外し、チューブ先端の接続部を回転させると外せます。



❸ 容器の接続部を上にして手に持ち、接続チューブ先端の接続部にネジ部をあわせます。

❹ 容器を時計回転の方向にゆっくりと回し、徐々に締めこみ固定されたことを確認します。

❺ 取り外しは消火後、器具全体が十分に冷めている事を確認のうえ、上記を逆の手順でおこないます。
また取り外しの際に、器具栓内に残った液体が出、ガスが発生します。周りに火気がない事、換気が良い事を確認して、取り外して下さい。

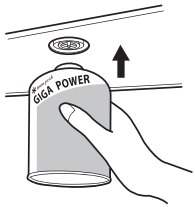
GS-220の場合

snowpeak指定専用容器
を使用してください。
指定専用容器以外は使用
しないでください。

容器内には液化石油ガスが入っています。器具を横倒しにしたり、逆さまにするなど、傾いた状態で取り付けると液状のガスが勢いよく噴出し、たいへん危険です。周囲に火気がないことを確かめまっすぐに装着してください。容器と器具を接続するネジは大変重要な部分です。過大な力で締めこんだり、斜めにねじ込んだりするとガス漏れの原因、破損の原因となります。両手で容器を持って締め付けると過大な力が加わってしまい、接続部や容器を破損しますので、必ず片手で締めてください。

❶ 本体前面の火力調節ツマミを時計回転方向に回し、ガス栓が閉じていることを確認してください。

❷ 容器を垂直に手に持ち、接続部にネジ部をあてます。



❸ 片方の手で容器を保持し、もう一方の手で下から見て時計回転方向にゆっくりと回し、徐々に締めこみ、固定されたことを確認して手を離します。

❹ 取り外しは上記を逆の手順で行います。

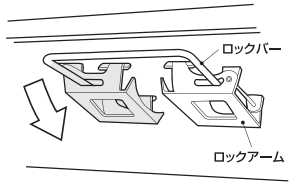
5 容器の本体への取り付け取り外し。

GS-230の場合

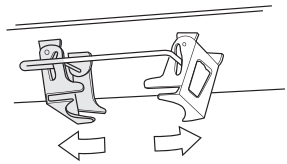
snowpeak指定専用容器
を使用してください。
指定専用容器以外は使用
しないでください。

作業は必ず片手に容器をしっかりと持ち、もう一方の手でロックバーの操作を行ってください。容器を器具に取り付けたまま手を離すなど落下させると、衝撃や容器の重量で接続チューブに負荷がかかり破損の原因となります。作業は容器を離さないようにしっかり持って行ってください。接続中容器の落下などによりチューブに衝撃がかかると、チューブや接続部が破損しガス漏れが発生する事があります。
万一ガス漏れが発生した場合は、ご使用を中止し、修理を依頼してください。
また作業中ロック部に指などを挟まないよう注意して行ってください。
チューブや接続部には絶対に衝撃を与えないでください。

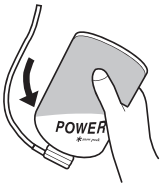
❶ ロックバーを下方に下ろし、左右のロック部を開きます。必ずロックバーで開閉を行ってください。ロックアーム部を持って無理な力で開閉を行うと容器が保持できなくなるなどの原因となります。



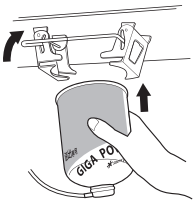
❷ ロックアームが開いた後、ロックバーを軽く持ち上げ、ロックアームを開いてください。

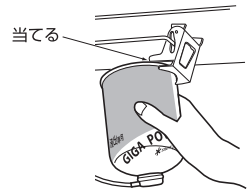


❸ 接続チューブに接続された容器をゆっくりと上下逆に持ち替えます。

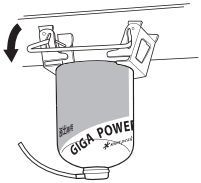


❹ ロックアームに容器底面を軽く押し当てます。





❺ 最後にロックバーをアームのスリットの下端まで下ろし、容器をロックします。

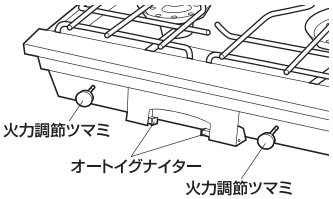


ロック後、接続チューブにねじれがあるときは、容器を回転させて、ねじれを取り除いてください。

❻ 取り外しは消火後、器具全体が十分に冷めていることを確認の上、上記を逆の手順でおこないます。
容器とアームにはガタツキがありますが、容器は落下しない構造になっています。

6 点火・火力調節・消火の方法。

❶ 点火方法
オートイグナイターが確実に放電している事を2〜3回確認して下さい。
火力調節ツマミを正面から見て反時計回転方向(左回転)にゆっくりと回し、ガスを少量噴出後オートイグナイター（着火装置)のボタンを押します。



火力調節ツマミをわずかに回してから、ガスが少量出た後に着火しますとスムーズに着火できます。

GS-230の場合

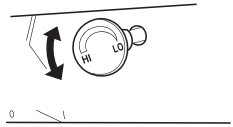
ガスを出して2秒以上点火できない場合はオートイグナイターの使用をやめガス臭がなくなるまで換気を行って下さい。
点火がうまく行かない場合は、先端の長いライターを使う事をお勧めします。
GS-230は液出しのため点火には特に注意が必要です。

ライターやマッチを使う時は予め火をつけてから火力調節ツマミを回します。着火できない時は一旦火力調節ツマミを時計回転方向に回し、ガスを止めてやり直してください。
ガスを出し放したまま着火すると大きな炎が上がり危険です。

注意：点火は必ず弱火で行ってください。特に高温の環境では、容器の内圧が高くなっており、点火直後大きな炎が上がることがあります。このような状況の時は一旦消火し、容器を冷ますか、冷めた容器に交換し再度弱火で点火してください。
注意：点火の際は、予め周囲に燃えやすい物がないことを確認してください。
また、バーナーヘッド上部に顔や体・手などを絶対に出さないでください。
オートイグナイターは、天候や湿度、また標高によっては点火できなくなる場合があります。必ず予備にマッチやライターをご用意下さい。

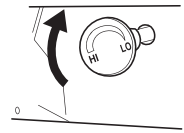
❷ 火力調節

火力調節ツマミは、反時計回転方向（左回転）に回すと、火力が大きくなり、時計回転方向に（右回転）に回すと小さくなります。
火力調節ツマミはゆっくりと回してください。



❸ 消火方法

火力調節ツマミを、時計回転方向(右回転)にゆっくりと止まるまで回します。
完全に火が消えたことを確認してください。容器交換する際は、消火後十分に器具が冷めた事を確認の上行ってください。



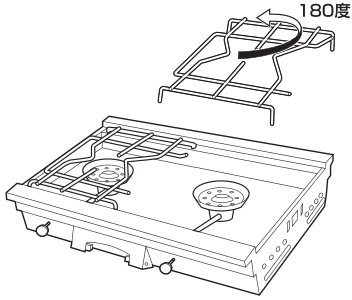
7 専用鉄板（別売）の使用方法。

鉄板を使用する際は、snowpeak指定の専用鉄板をご使用ください。

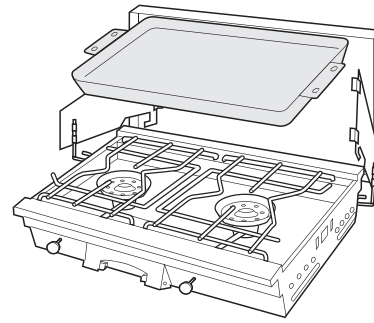
＜専用鉄板＞
グリルプレート黒皮鉄板（GR−006）

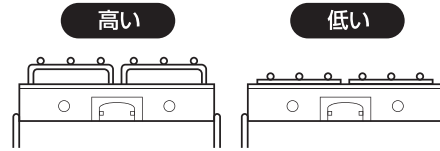
**専用鉄板をご使用になる際は、本体への輻射熱や不完全燃焼を防ぐために、ゴトクを必ず高い位置に移動し使用してください。
ゴトクを低い位置のまま使用しますと、ゴトクの突起により鉄板が不安定になります。**

❶ ゴトクを高い位置に置き換えます。
片方のゴトクを取りはずし、180度回転させ置きなおすと、高い位置に設定されます。もう一方のゴトクも同じように回転させ高い位置に置き換えます。

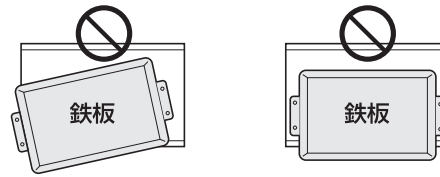


❷ 専用鉄板をゆっくりと置きます。
大きなガタツキがないか、または鉄板が傾いていないか確認してください。ガタツキ等の異常があった場合は鉄板を外し、ゴトクの位置を再度確認してください。
鉄板を使用の際は、ウインドスクリーンカバーを必ず取り付けた状態で使用して下さい。





専用鉄板は必ず本体の中央にバランスよく置いて、調理してください。片寄った置き方で使用しますと、不完全燃焼などが起き大変危険です。



専用鉄板の他、大きな鍋（直径28cm以上）くんせい機、オーブンを使用する時は、ゴトクを高い位置に設定してください。

ご使用上の注意

ガス漏れのあるもの、衝撃を受けたもの、正しく作動しなくなったものは使用しないでください。

1. 調理以外の目的には絶対に使用しないでください。
2. 本体及び各部分は、使用中大変熱くなります。火傷等に注意しご使用ください。
3. 使用する前に容器や接続部にゴミやホコリが付着していない事を確認してください。接続部は常にきれいにして、不用意に地面に置くなどしないでください。ゴミやホコリが付着すると、接続部やチューブ内で目詰まりを起こすなどし、出力を低下させたり、ガスが出ないなど故障の原因になります。
4. ご使用になる鍋は直径23cmを目安にお選びください。大き目の鍋をご使用になる場合や鉄板をご使用になる時は、ゴトクを必ず高い位置に設定して下さい。
   大きすぎる鍋は不安定になり転倒するなど危険です。また指定の鉄板以外は使用しないでください。
5. 気温や容器の温度によりガス圧が変化し燃焼状態（炎の具合や出力など）が変化します。
6. 正立使用の低温時は、気化熱により缶体がさらに冷却され、火力が低下します。
7. GP-500S（銀缶）は正立使用の場合配合ガスの特性により20度以下での使用では、満足な火力を得ることができません。低温時が予測される場合は、GP-500G（金缶）をご使用ください。
8. 強い風や煮こぼれ等で、火が消えることがあります。使用中は目を離さないでください。
9. 異常燃焼が起きた時は速やかに消火し使用を中止してください。
10. 炎が当たる部分や炎に近い部分は金属が焼けて変色します。
11. 容器を装着している状態では、ガス漏れを防ぐ為に火力調節ツマミを必ず締めてください。
12. ガス臭がしたら速やかに消火してください。完全に消火しているか確認後に容器を取り外してください。また決して着火しないでください。
13. ガスは比重が重く、低いところに溜まりやすい性質があります。万が一ガス漏れが起きた場合は、十分に換気ができるまで、絶対に使用しないでください。
14. 使用しない場合は、容器を取り外して下さい。
15. イグナイターから放電しない場合は点火できません。先端の長いライター等で点火して下さい。
16. ガス缶の残量と外部要因（低温時、強風時、湿度、標高の高い場所など）において、点火装置で着火しない場合があります。必ず、電子式（圧電式）でないライターやマッチを準備願います。

点検・手入れのしかた

1. 定期的に点検、手入れを行ってください。
2. ご使用になる前に器具が正常に動作する事を確認してください。
3. 煮こぼれしたときは、必ず布などでバーナーの清掃を行ってください。
4. 故障または破損したと思われるときは、使用しないでください。
5. お客様による修理は危険です。万一正常に使用できなくなった時は、お買い求めになった販売店または弊社にご相談ください。

アフターサービス

お買い求めいただきました製品は万全を期していますが、万一不備な点がございましたら、お買い求めの販売店または弊社にご相談ください。
製造上の欠陥が原因の場合は無償で修理または交換させていただきます。その他の場合は適切な価格で修理させていただきます。
また右のような場合は修理できない場合もありますので、予めご了承ください。

1.素材の経年劣化による損傷など製品の寿命。
2.誤った使い方や粗雑な取扱いによる故障。
3.改造による故障。
4.取扱説明書で禁止されている取扱いによる故障。
5.不測の事故による製品の故障。
6.その他製造上の欠陥以外による製品の故障。
7.ゴミやサビによる故障。
8.分解した事による不具合の発生又は破損。
9.落下やその他の衝撃による部品の変形や破損による不具合。
10.摩耗によるパーツの変化それによる不具合。
11.他社製品との組み合わせによる故障。

故障・異常の見分け方と処置の仕方

原因 ＼ 症状	容器の取り付け不良	専用容器を使用してない	容器のネジの異常	器具栓の故障	器具の取り付け不十分	スピンドル不良	容器の異常	バーナー部の目づまり	ノズルの目づまり	イグナイター(着火装置)不良	容器の異常加熱が起き、内圧が高い	使用中の容器内が、気化熱を奪われる事による内圧の低下
容器がセットできない	✓	✓	✓	✓								
ガスが漏れる				✓	✓	✓	✓					
点火しない							✓	✓	✓	✓		
火力が弱い							✓	✓	✓			✓
火力が異常に強い											✓	
火力が不揃い								✓	✓			
使用中に消える		✓					✓	✓	✓			
消火しない				✓		✓						
処理方法	容器を取扱い説明書通りに取り付ける	スノーピーク専用容器を使用する	新しい容器と交換する	点検を依頼する	容器の取り付け確認	点検を依頼する	新しい容器と交換する	壊さない様に布で掃除し汚れを落とす	点検を依頼する	点検を依頼する	容器を冷ますか、冷めた容器に交換する	冷えていない容器に交換する

ギガパワーツーバーナースタンダード（GS−220）の場合

●上記内容をご確認いただき、異常のあるときやお分かりにならないことがあった場合は、お求めの販売店または弊社にご相談ください。

●消火しない場合は周囲の安全を確認し、ガスがなくなるまで燃焼させてください。

品質表示

ギガパワーツーバーナー液出し
（GS-230）

●材　質／ステンレス、アルミアルマイト
　　加工、ブラス
●サイズ／収納時：500×110×360mm、風防
　　装着使用時：563×293×383mm、
　　スタンド装着時：563×514×383mm
●重　量／7.3kg
●出　力／3,000ｋcal（3.5ｋW）×2
●ガス消費量／250g/h
●指定容器／ギガパワーガス500 イソ（GP-500S）
　　ギガパワーガス500 液出し（GP-500BL）
●指定鍋径／23cm以下
●容　　量／8.0ℓ以下

ギガパワーツーバーナースタンダード
（GS-220）

●材　質／ステンレス、アルミアルマイト
　　加工、ブラス
●サイズ／収納時：500×110×360mm、風防
　　装着使用時：563×293×383mm、
　　スタンド装着時：563×514×383mm
●重　量／7.0kg
●出　力／2,800ｋcal（3.3ｋW）×2
●ガス消費量／250g/h
●指定容器／ギガパワーガス500 プロイソ（GP-500G）
　　ギガパワーガス500 イソ（GP-500S）
●指定鍋径／23cm以下
●容　　量／8.0ℓ以下

株式会社スノーピーク
〒955-8616 新潟県三条市三貫地958
tel:0256-38-1110　fax:0256-38-1015
www.snowpeak.co.jp

snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

ギガパワーツーバーナー液出し GS-230

容器の取り付け／取り外し①

容器とチューブを接続する

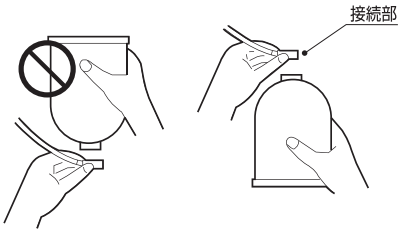
snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

指定専用容器

ギガパワーガス500 イソ
ギガパワーガス500 液出し

（GP-500SまたはGP-500BL）を使用してください。この専用容器以外は使用しないでください。

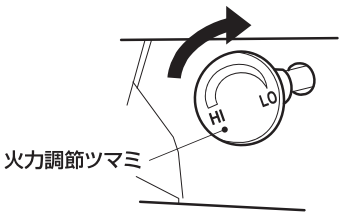
容器は正立（接続部が上）の状態で取り付けてください。容器を倒立（接続部が下）の状態で、器具へ取り付けますと液状のガスが勢いよく噴出し、引火・火災・火傷の原因となり大変危険です。



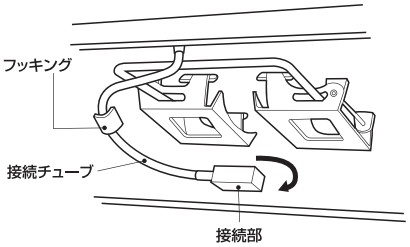
周囲に火気がないことを確かめてから接続してください。容器と器具を接続するネジは大変重要な部分です。

過大な力で締めこんだり、斜めにねじ込んだりするとガス漏れの原因、破損の原因となります。

❶ 本体前面の火力調節ツマミを時計回転方向に回し、ガス栓を閉じてください。



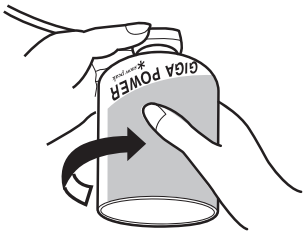
❷ 裏面に収納されている、接続チューブを取り外します。取り外しはチューブのフッキングを外し、チューブ先端の接続部を回転させると外せます。



❸ 容器の接続部を上にして手に持ち、接続チューブ先端の接続部にネジ部をあわせます。

指定専用容器
（GP-500SまたはGP-500BL）

❹ 容器を時計回転方向にゆっくりと回し、徐々に締めこみ固定されたことを確認します。



❺ 取り外しは消火後、器具全体が十分に冷めている事を確認のうえ、上記を逆の手順でおこないます。また取り外しの際に、器具栓内に残った液体がでます。換気の良い場所で周りに火気がないことを確認して、取り外してください。

注 意 容器の着脱は必ず正立（接続部が上）の状態で取り付けてください。

株式会社スノーピーク
〒955-8616 新潟県三条市三貫地958
tel:0256-38-1110 fax:0256-38-1015
www.snowpeak.co.jp

ギガパワーツーバーナー液出し GS-230

容器の取り付け／取り外し②

容器を本体へ取付ける

snow peak
outdoor lifestyle creator since1958

指定専用容器
ギガパワー500 イソ
ギガパワーガス500 液出し

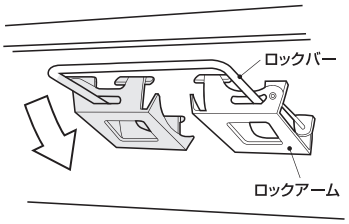
（GP-500ＳまたはGP-500BL）を使用してください。この専用容器以外は使用しないでください。

白地に青帯
または白地に銀帯

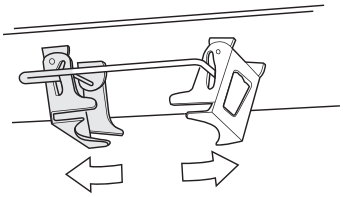
白地に赤帯
または白地に金帯

作業は必ず片手に容器をしっかりと持ち、もう一方の手でロックバーの操作を行ってください。容器を器具に取り付けたまま手を離すなど落下させると、衝撃や容器の重量で接続チューブに負荷がかかり破損の原因となります。作業は容器を離さないようにしっかり持って行ってください。接続中容器の落下などにより接続チューブに衝撃がかかると、チューブ接続部からガス漏れが発生する事があります。万一ガス漏れが発生した場合は、ご使用を中止し、修理を依頼してください。また作業中ロック部に指などを挟まないよう注意して行ってください。

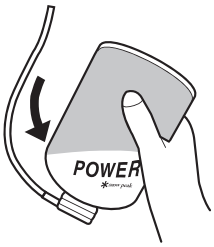
1. ロックバーを下方に下ろし、左右のロック部を開きます。必ずロックバーで開閉を行ってください。ロックアーム部を持って無理な力で開閉を行うと容器が保持できなくなるなどの不具合の原因となります。



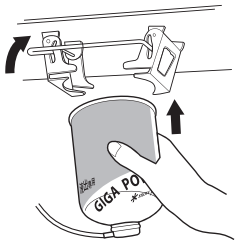
2. ロックアームが開いた後、ロックバーを軽く持ち上げ、ロックアームを開いてください。

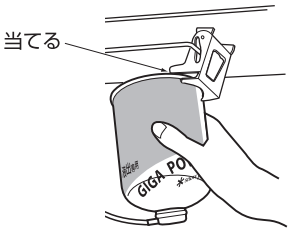


3. 接続チューブに接続された容器をゆっくりと上下逆に持ち替えます。

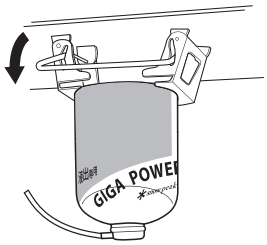


4. ロックアームの突起部に容器の底面を軽く押し当てます。





5. 最後にロックバーをアームのスリットの下端まで下ろし、容器をロックします。



ロック後、接続チューブにねじれがあるときは、容器を回転させて、ねじれを取り除いてください。

6. 取り外しは消火後、器具全体が十分に冷めていることを確認の上、上記を逆の手順でおこないます。容器とアームにはガタツキがありますが、容器は落下しない構造になっています。

注 意 取り付け・取り外しの作業は、容器を離さないように、しっかり持って行ってください。
衝撃や容器の重量で、接続チューブに負荷がかかり、破損の原因となります。